

2017年11月30日・

和田弘とマヒナスターズで思い出すのは「お座敷小唄」。Wikipediaによれば、昭和39年(1964)、和田弘とマヒナスターズが広島に巡業したとき、和田弘がキャバレーのホステスが口ずさむこの曲を採取し、松平直樹に検討させたそうです。和田らはドドンパのリズムに乗せてモダン化し、松尾和子を加えてレコーディングしたということです。ここではWikipediaに従って作曲者不詳/寺岡真三編曲としましたが、陸奥明作曲と書いてあるものもありました。ちなみに6番にある「さのさ」は明治30年(1897)ころから流行した俗謡で一節の最後に「さのさ」という囃子詞(はやしこ)とば)がつくもの。「どどいつ(都々逸)」は、江戸末期に初代の都々逸坊扇歌によって大成された、口語による定型詩で、七・七・七・五の音数律に従うものだそうです。以前の職場で、「どどいつ」を飲み会のレパートリーに加えていらっしゃった先生を思い出します。

『お座敷小唄』

作詩・作曲:不詳 寺岡真三編曲

- 1 富士の高嶺に 降る雪も
京都先斗町に 降る雪も
雪に変わりは ないじゃなし
とけて流れりや 皆同じ
- 2 好きで好きで 大好きで
死ぬ程好きな お方でも
妻と言う字にや 勝てやせぬ
泣いて別れた 河原町
- 3 ぼくがしばらく 来ないとて
短気おこして やけ酒を
飲んで身体を こわすなよ
お前一人の 身ではない
- 4 一目見てから 好きになり
ほどの良いのに ほだされて
よんでよばれて いる内に
忘れられない 人となり

5 どうしたかと 肩に手を
どうもしないと うつむいて
目にはいっぱい 涙ため
貴方しばらく 来ないから

6 唄はさのさか どどいつか
唄の文句じゃ ないけれど
お金も着物も いらぬわ
貴方ひとりが 欲しいのよ

2017年11月28日・

「北上夜曲」は、昭和20年代の初めごろから、岩手県盛岡、宮城県仙台あたりから自然発生的に歌われ始められたものだそうで、しだいに全国に広まり、昭和30年代初めには歌声喫茶の定番曲の1つとなったということです。その後、作詞者は岩手県出身の菊地規(のりみ)、作曲者はその友人の安藤睦夫と判明しました。作詞は昭和15年(1940)、作曲は翌16年(1941)、2人ともまだ十代だったそうです。昭和36年(1961)、和田弘とマヒナスターズ+多摩幸子、ダークダックス、菅原都々子などが歌い、いずれもヒットし、映画化もされて、一大ブームとなりました(二木紘三のうた物語より)。

4番の歌詞を見て改めてそういう歌だったのかと感慨を新たにしました。北上川は岩手県、宮城県を流れて石巻湾に注ぐ一級河川です。

『北上夜曲』

作詞:菊地規、作曲:安藤睦夫

1 匂い優しい白百合の
濡れているよなあの瞳
思い出すのは 思い出すのは
北上河原の月の夜

2 宵の灯(ともしび)点(とも)すころ
心ほのかな初恋を

想出すのは 想出すのは
北上河原のせせらぎよ

3 銀河の流れ仰ぎつつ

星を数えた君と僕
想出すのは 想出すのは
北上河原の星の夜

4 雪のちらちら降る夜に

君は召されて天国へ
想出すのは 想出すのは
北上河原の雪の夜

5 僕は生きるぞ 生きるんだ

君の面影胸に秘め
想出すのは 想出すのは
北上河原の初恋

2017年11月26日・

ペギー葉山さんの歌をもうひとつ。「南国土佐を後にして」。各節後半が「よさこい節」(夜さ来い=夜にいらっしやい)となっていて、ここでは3番までですが、よさこい節は10番まであるようです。何年前だったか、高知大学に出かけた際に泊まったホテルのすぐ近くに「はりまや橋」があることを知り、見に行つて来ました。修行僧の身で禁断の恋に落ち、女性にかんざしを買ったことを見た他の嫉妬深い修行僧に告げ口され、駆け落ちするも、見つかつて連れ戻され、悲しい運命を辿ったという話でした。ちなみに、「南国土佐を後にして」は大流行し、その結果、土佐への観光客が急増したということです。

『南国土佐を後にして』

作詞:武政英策 作曲:武政英策

南国土佐を後にして
都に来てから幾歳ぞ
思い出します故郷の友が
門出に歌ったよさこい節を
土佐の高知のハリマヤ橋で
坊さんかんざし買うをみた

月の浜辺で焚火を囲み
しばしの娯楽の一時を
わたしも自慢の声張り上げて
歌うよ土佐のよさこい節を
みませ見せましょ浦戸をあけて
月の名所は桂浜

国の父さん室戸の沖で
鯨釣ったと言う便り
わたしも負けずに励んだ後で
歌うよ土佐のよさこい節を
言うたちいかんちゃ おらんくの池にや
潮吹く魚が泳ぎよる
よさこい よさこい

2017年11月24日・

学生時代の懐かしい歌を挙げておきながら、ペギー葉山さんの「学生時代」を取り上げていませんでした。昭和39年(1964)リリース。チャペルは、青山学院青山キャンパスにある、ベリーホール内の「チャールズ・オスカー・ミラー記念礼拝堂」だそうです。

『学生時代』

作詞:平岡精二 作曲:平岡精二

つたの絡まるチャペルで 祈りを捧げた日
夢多かりしあの頃の 思い出をたどれば

懐しい友の顔が 一人一人うかぶ
重いカバンを抱えて 通ったあの道
秋の日の図書館の ノートとインクの匂い
枯葉の散る窓辺 学生時代

讚美歌を歌いながら 清い死を夢みた
何んの よそおいもせずに 口数も少なく
胸の中に秘めていた 恋への憧れは
いつもはかなく破れて 一人書いた日記
本棚に目をやれば あの頃読んだ小説
過ぎし日よ わたしの学生時代

ロウソクの灯に輝く 十字架を見つめて
白い指をくみながら うつむいていた友
その美しい横顔 姉のように慕い
いつまでもかわらずに と願った幸せ
テニスコート キャンプファイヤー
懐しい日々は帰らず
すばらしいあの頃 学生時代
すばらしいあの頃 学生時代

2017年11月22日・

「私の城下町」は「瀬戸の花嫁」の1年前の昭和46年(1971)発表。小柳ルミ子のデビュー曲。私は1974年からの6年間をアメリカとスイスで過ごし、1980年に日本に帰ってきて、驚いたことを2つばかり覚えています。一つは大相撲の力士がすっかり入れ変わってしまったこと、もうひとつは小柳ルミ子が全く変わってしまって、あの清純派の面影はその片鱗も見られなかったことでした。本題(本題なんてないとはいえ)とは関係ありませんが。。。

『私の城下町』

作詞:安井かずみ、作曲:平尾昌晃

1 格子戸(こうしど)をくぐり抜け

見あげる夕焼けの空に
だれが歌うのか子守唄
わたしの城下町
好きだともいえずに歩く
川のほとり
往(ゆ)きかう人に
なぜか目をふせながら
心は燃えてゆく

2 家並がとぎれたら

お寺の鐘がきこえる
四季の草花が咲き乱れ
わたしの城下町
橋のたもとにともる
灯(あかり)のように
ゆらゆらゆれる
初恋のもどかしさ
きまづく別れたの

橋のたもとにともる
灯(あかり)のように
ゆらゆらゆれる
初恋のもどかしさ
きまづく別れたの

2017年11月20日・

はしだのりひこの「風」が浮かんで来て、頭の中で何回か何気なしに口ずさんでいたところ、気がついたら「人は誰も夢破れ 振りかえる」に続いて、「だんだん畑とさよならするのよ」となって「瀬戸の花嫁」になってしまいました。たまにこんなことありませんか? 「瀬戸の花嫁」も学生時代の懐かしい歌です。昭和47年(1972)発表。

『瀬戸の花嫁』

作曲:平尾昌晃 作詞:山上路夫

一、瀬戸は日暮れて 夕波小波
あなたの島へ お嫁にゆく
若いと誰もが 心配するけれど
愛があるから だいじょうぶなの
だんだん畑と さよならするのよ
幼い弟 行くなと泣いた
男だったら 泣いたりせずに
父さん母さん だいじにしてね

二、岬まわるの 小さな船が
生まれた島が 遠くになるわ
入江の向こうで 見送る人たちに
別れ告げたら 涙が出たわ
島から島へと 渡ってゆくよ
あなたとこれから 生きてく私
瀬戸は夕焼け 明日も晴れる
二人の門出 祝っているわ

2017年11月18日・

「あの素晴らしい愛をもう一度」の三番「あの時 風が流れても。。。」。風と言えば「はしたのりひことシューベルツ」の「風」。はしたのりひこ(本名 端田宣彦)は加藤和彦に請われてザ・フォーク・クルセイダーズに入ったそうですが、フォーク解散後、「はしたのりひことシューベルツ」など、いくつかのグループを結成しました。はしたのりひこと言えば、やはり「風」が思い出されます。昭和43年(1968)発表。

『風』

作詞:北山修 作曲:端田宣彦

人は誰もただ一人 旅に出て
人は誰もふるさとを 振りかえる
ちょっぴりさみしくて 振りかえっても
そこにはただ風が 吹いているだけ

人は誰も人生に つまづいて
人は誰も夢破れ 振りかえる

プラタナスの枯葉舞う 冬の道で
プラタナスの散る音に ふりかえる
帰っておいでよと 振りかえっても
そこにはただ風だけが 吹いているだけ
人は誰も恋をした 切なさに
人は誰も耐えきれず ふりかえる

何かをもとめて ふりかえっても
そこにはただ風だけが 吹いているだけ
ふりかえらずただひとり 一歩ずつ
ふりかえらず泣かないで 歩くんだけ
何かをもとめて ふりかえっても
そこにはただ風が 吹いているだけ
吹いているだけ 吹いているだけ
吹いているだけ...

2017年11月15日・

「ザ・フォーク・クルセイダーズ」(略称フォークル)が結成されたのは1965年。1967年にアマチュアのフォークルを一旦解散して同年、当初からの予定で1年間だけのプロのフォークルが結成されました。1968年解散後、北山修作詞、加藤和彦作曲の「あの素晴らしい愛をもう一度」が製作されたのは1971年でした。北山は翌1972年、京都府立医大を卒業。札医大内科研修生を経てロンドンのモーズレイ病院およびキングス・カレッジ・ロンドン精神医学研究所で2年間研修して帰国。以来、精神科医、精神分析家、臨床心理学者、作詞家、ミュージシャンと幅広く活躍して来ました。2010年3月、九州大学を定年退職。同大名誉教授。退職前年の2009年10月、うつ病に苦しんでいた加藤和彦が自死したことに、親しい友を失ったショックと共に、精神科医として友を救えなかったことに打ちのめされたといわれます。加藤和彦の死に際しての気持ちを北山が作詞、行徳伸彦が作曲したのが「早く逝こうとする君」でした。「あの素晴らしい愛をもう一度」は北山修・加藤和彦の二人にとって大切な歌だったようです。

『あの素晴らしい愛をもう一度』

作詞: 北山修 作曲: 加藤和彦

命かけてと 誓った日から
すてきな思い出 残してきたのに
あの時 同じ花を見て
美しいと言った二人の
心と心が 今はもう通わない
あの素晴らしい愛をもう一度
あの素晴らしい愛をもう一度

赤トンボの唄を 歌った空は
なんにも変わって いないけれど
あの時 ずっと夕焼けを
追いかけていった二人の
心と心が 今はもう通わない
あの素晴らしい愛をもう一度
あの素晴らしい愛をもう一度

広い荒野に ぽつんといるよで
涙が知らずに あふれてくるのさ
あの時 風が流れても
変わらないと言った二人の
心と心が 今はもう通わない
あの素晴らしい愛をもう一度
あの素晴らしい愛をもう一度

2017年11月14日・

リンデンバウムは菩提樹です。「菩提樹」といえばシューベルトの歌曲集「冬の旅」の第5曲。菩提樹はヨーロッパの人達の心の奥深くに根ざしているようです。日本でいえば、桜に相当する木なのではないでしょうか。大学の教養の頃、クラスの親しい仲間と、これを第二外国語のドイツ語のテキストにして一緒に勉強したことを思い出します。(訳詞の後に原詩を付けました)

『菩提樹』

シューベルト作曲・近藤朔風訳詞

泉に添いて 茂る菩提樹
したいゆきては うまし夢見つ
みきには彫(え)りぬ ゆかし言葉
うれし悲しに *といしそのかけ

今日もよぎりぬ 暗きさよなか
まやみに立ちて まなこ閉ずれば
枝はそよぎて 語るごとし
来よいとし友 * 此処に幸(さち)あり

おもをかすめて 吹く風寒く
笠は飛べども 捨てて急ぎぬ
はるかさかりて たたずまえば
なおもきこゆる * 此処に幸あり

* 繰り返し

"Der Lindenbaum"

Lyrics: Wilhelm Mueller (Winterreise #5)

Komponiert von Franz Schubert

Am Brunnen vor dem Tore,
Da steht ein Lindenbaum,
Ich träumt' in seinem Schatten
So manchen süßen Traum.
Ich schnitt in seine Rinde
So manches liebe Wort;
Es zog in Freud' und Leide
* Zu ihm mich immer fort.

Ich mußt' auch heute wandern
Vorbei in tiefer Nacht,
Da hab' ich noch im Dunkeln
Die Augen zugemacht
Und seine Zweige rauschten,
Als riefen sie mir zu:
Komm her zu mir Geselle,
* Hier find'st du deine Ruh'!.

Die kalten Winde bliesen
Mir grad' ins Angesicht,
Der Hut flog mir vom Kopfe,
Ich wendete mich nicht.
Nun bin ich manche Stunde
Entfernt von jenem Ort,
Und immer hör' ich's rauschen:
* Du fändest Ruhe dort!
* 繰り返し

2017年11月12日・

「リンデンバウムの歌」、昭和39年。榊みちよさんの歌。「こんにちは赤ちゃん」が昭和38年ですからその翌年になります。東京の日生劇場でその年9月に上演された音楽劇「若きハイデルベルヒ」で榊みちよは北大路欣也演ずる王子の恋人役をつとめ、その劇中で歌われた歌ということです。小澤征爾と共に日フィルを指揮しておられ、独特の分かりやすい解説が記憶に残る山本直純さんの作品ということで印象に残っています。作詞の岩谷時子さんはウナセラディ東京の作詞者でもあり、どんな方かと思ってGoogleで調べて見たところ、職業に作詞家、翻訳家と共に越路吹雪の生涯の付き添い人、とありました。

『リンデンバウムの歌』

作詞：岩谷時子 作曲・編曲：山本直純

一 リンデンバウムの大きな幹に
愛の言葉を彫ってきた
リンデンバウムのみどりの木陰
勿忘草(わすれなぐさ)が咲いていた
牧笛(つのぶえ)がわたる夕べの空
ふたりの愛の星がのぼってくる
私の好きな 好きなひと
私の甘いくちづけ あなただけに

二 リンデンバウムの繁みのなかで
森の泉がわいていた
リンデンバウムに夜がくるとき
夜鶯(ナイチンゲール)がなっていた
ともしびがゆれる水のほとり
たのしい恋の歌が聞こえてくる
私の好きな 好きなひと
私の甘いくちづけ あなただけに

三 リンデンバウムの月のあかりに
いつもあなたを待っていた
リンデンバウムは 私のほほに
つたう涙を知っていた
森かげに憩う旅人たち
なつかしい故里を夢みてる
私の好きな 好きなひと
私の甘いくちづけ あなただけに

2017年11月10日・

「ウナセラディ東京」、イタリア語でウナ(una)は one もしくは a、セラ(sera)は twilight、ディ(di)は of だそうですので、ウナセラディ東京は「東京の或るたそがれ時」。Wikipedia によれば、1963 年にザ・ピーナッツが「東京たそがれ」として歌ったのが始まりで、その後、曲調を一部変更して、タイトルも「ウナ・セラ・ディ東京」に変更されました。ほぼ同時期に、和田弘とマヒナスターズ、坂本スミ子、西田佐知子も本曲を歌うようになりました。

『ウナセラディ東京』

作詞:岩谷時子 作曲:宮川泰

哀しいことも ないのに
なぜか 涙がにじむ
ウナ・セラ・ディ東京 あゝ
いけない人じゃ ないのに
どうして 別れたのかしら
ウナ・セラ・ディ東京 あゝ
あの人はもう 私のことを
忘れたかしら とても淋しい

街はいつでも
後姿の 幸せばかり
ウナ・セラ・ディ東京 あゝ
あの人はもう 私のことを
忘れたかしら とても淋しい
街はいつでも
後姿の 幸せばかり
ウナ・セラ・ディ東京 あゝ
ウナ・セラ・ディ東京 あゝ
ウナ・セラ・ディ東京 あゝ

2017年11月8日・

月の光が多摩川の川面に長く伸びるのを見て思い浮かんだのが「長い影が夜にのびて。。。」。光と影で逆ですが。井上陽水の「少年時代」。平成2年(1990)リリース。

『少年時代』

作詞:井上陽水 作曲:平井夏美

夏が過ぎ 風あざみ
誰のあこがれに さまよう
青空に残された 私の心は夏模様
夢が覚め 夜の中
永い冬が 窓を閉じて
呼びかけたままで
夢はつまり 思い出のあとさき

夏まつり 宵かがり
胸のたかなりに あわせて
八月は夢花火 私の心は夏模様
目が覚めて 夢のあと
長い影が 夜にのびて
星屑の空へ
夢はつまり 思い出のあとさき

夏が過ぎ 風あざみ
誰のあこがれに さまよう
八月は夢花火 私の心は夏模様

2017年11月6日・

昨夜は満月(満月は正確には4日土曜でした)が東の空から昇り、月の明かりが、多摩川の河面に長く伸びていました。浜辺ではありませんが、「青い月夜」の浜千鳥を思い出しました。浜千鳥の歌詞は、作詞者の鹿島鳴秋が柏崎に友人を訪ね、2人で新潟県柏崎市の浦浜から番神海岸を散歩しているときに、書き記したものだということです。大正8年(1919)発表。作曲者の弘田龍太郎は浜千鳥のほかに、『鯉のぼり』、『雀の学校』、『春よこい』、『靴が鳴る』、『叱られて』などの作品を残しています。

『浜千鳥』

作詞:鹿島 鳴秋、作曲:弘田 龍太郎

青い月夜の 浜辺には
親を探して 鳴く鳥が
波の国から 生まれでる
濡れたつばさの 銀の色

夜鳴く鳥の 悲しさは
親を尋ねて 海こえて
月夜の国へ 消えてゆく
銀のつばさの 浜千鳥

2017年11月3日・

「雨がやんだら」の中の「あなたが作ったインクの染みを」で思い出したのが「壁の傷も残したまま。。。」「つぐない」は昭和59年(1984)リリース。テレサテン(鄧麗君)は、平成7年(1995)5月8日、静養のためたびたび訪れていたタイ・チェンマイのメイピンホテルで気管支喘息による発作のため死去。享年42歳。

『つぐない』

作詞:荒木 とよひさ 作曲:三木 たかし

窓に西陽があたる部屋は
いつもあなたの 匂いがするわ
ひとり暮らせば 思い出すから
壁の傷も 残したまま おいてゆくわ
※愛をつぐなえば 別れになるけど
こんな女でも 忘れないでね
優しすぎたの あなた
子供みたいな あなた
あすは他人同志になるけれど※

心残りは あなたのこと
少し煙草も ひかえめにして
過去に縛られ 暮らすことより
わたしよりも可愛い人 探すことよ

愛をつぐなえば 重荷になるから
この町を離れ 暮らしてみるわ
お酒のむのも ひとり
夢を見るのも ひとり
あすは他人同志になるけれど

* 繰り返し